

1-4

松本城天守創建に関わる基礎知識

松本城管理事務所研究室

1 松本城天守3棟（大天守・渡櫓・乾小天守）は石川康長やすながによって何時（いつ）創建されましたか。

———② 文禄2年（1593）12月着工、文禄4年（1595）2月以前竣工

平成2年6月の「国宝松本城築造年代懇談会の答申書ちくぞうねんだいこんだんかい」によると。文禄2年(1593)霜月、康長は肥前名護屋ひぜんなごやの陣中から松本町の役人に宛てて「やがて帰陣」の折りに指示をするので待つようにとの書状を送り、文禄2年12月2日には松本「本立寺」宛て朱印状が石川康長（三長）の名で出されているので、この段階で康長は松本に帰国していたことがわかる。後出の文禄3年(1594)4月の源智の井戸ふじょうぶつていしの不浄物停止せいまつの制札は建築にかかわる職人が多く入り込み混雑し、井戸水使用が乱雑になっていたことを示しており、天守建築がピークに達していたことを物語っている。文禄4年2月4日、康長は山家山やまべやまの材木による宮村町の家作りを許可し、3月23日には島々山の木材を伐採して東町の家作りの許可している。このことは、天守建築が一段落し、城下町まちやの町家建築に重点が移ったことを示している。以上から天守は文禄2年12月着工、文禄3年天守建築のピーク・文禄4年2月以前竣工とされたのである。

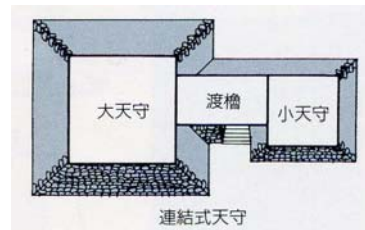
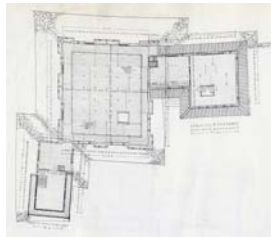
2 石川氏は秀吉の命を受けて関東の家康を監視するため天正18年(1590)に松本にゅうぼうに入封しますが、すぐ天守建築に取りかかれませんでした。その原因と考えられること2つを選び○を付けなさい。———①・④

- ・天正18年(1590)8月26日以前、松本に入った石川数正は すぐ国境界確定の難問にぶつかります。北の筑北・川手地域は上杉との間で攻防が繰り返され、結局秀吉の命令で上杉景勝うすすぎかげかつとの領界問題が解決した。
- ・天正19年(1591)朝鮮出兵問題が起こり、石川氏には500人の動員が課せられた。この年はその準備に追われ、天正20年(1592)3月数正・康長は肥前名護屋に向けて京都を出発している。

このように入国時の国境界問題・肥前名護屋参陣があり、天守建設計画をもち資材の蓄積を進めながらも実施に移すことは出来ないでいたと考えられる。

平成2年史料「正保元年永井信尚家系ながいしんしょう覚書おぼえがき控ひかえ」が発見された。永井氏は大工頭で。「天正18年石川氏の家臣となり、文禄2年2代目石川様（康長）について御天守ごてんしゅ建て、縄張なわばりの手柄をほめられたと」あり、文禄2年によろやく天守建設へ着手できたのである。

- 3 巨石を運ぶ「そり」の呼び名—— ② 修羅（しゅら）——^{しゅらぐるま}修羅車とか^{しゅらぶね}修羅舟ともいう。阿修羅が帝釈天を動かす力を持っているので、修羅が^{たいしゃく}帝釈（大石—タイシヤク）を動かすの意から名付けられたという。
- 4 大天守は^{きょうまますんぽう}京間寸法で設計されています。京間寸法の^{いっけん}1間の尺度は ——④6尺5寸
乾小天守は江戸間寸法（^{いなかま}田舎間寸法）で設計されている。江戸間の1間は6尺である。したがって基本的に乾小天守の^{はしらま}柱間は6尺、大天守の^{はしらま}柱間は6尺5寸である。江戸時代になるとしだいに江戸間寸法に統一されていく。
- 5 石川氏の建てた天守3棟はなんとという「天守形式」ですか。—— ③^{れんけつ}連結式天守
寛永10年から11年（1633～34）頃松平直政により辰巳附櫓と月見櫓が増設された。5棟全体では「^{れんけつふくごう}連結複合式天守」と呼ぶ。



- 6 石川康長がやらなかった松本城の築造工事はどれでしょう。1つ〇をつ付けなさい。
③六九町に^{うまや}厩を建設（松平直政）
- 7 文禄3年（1594）4月に康長が、「源智の井戸」へ^{せいぎつ}制札を掲げたわけ。——②天守や町家の建設で職人が町にあふれ井戸の使用頻度が増えたから、汚れが目立ったため。
※1の解説参照
- 8 文禄4年（1595）2月と3月町家建設のために用材伐採を許可した山は「島々山」ともいう一つはどこか。——③山家（辺）山
このことは松本の近くの山には建築用材となる材木がはなくなり、かなり奥山から切り出さざるをえなくなっていることを示している。
- 9 松本城天守が完成したとき江戸から城見舞（完成祝）に来た武将は ——①加藤清正
このエピソードは明治42年清正公三百年会編纂「加藤清正伝」にのっている。
この時、石川康長の引き出物である駒を2疋つないだ桜が「駒つなぎの桜」である。
※4月15日配布の「駒つなぎの桜ガイド」参照
- 10 松本城天守の創建者石川康長は慶長18年（1613）大久保長安事件に連座して改易され^{だいまとうあず}大名預けとなった。その配流先は ——④^{きいき}豊後佐伯（さえきとも読む）
・豊後佐伯藩主 毛利高政預けとなる。配流地にて寛永19年（1642）12月11日没。
佐伯善教寺に葬られた。松本の正行寺では毎年12月11日康長の法要を行っている。